

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970600167		
法人名	医療法人 桃潤会		
事業所名	在宅福祉施設 グループホーム みたま		
所在地	山梨県 西八代郡 市川三郷町 上野 2968		
自己評価作成日	平成28年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで以上に町の福祉課との連携を密に行い、今年から防災対策に力を入れます。具体的には地域の避難所として災害協定書を結びます。その他、町の包括支援センターで企画された在宅介護の研修会に参加して、自分たちの経験を伝え、町の在宅支援事業にも参加させていただいている。地域の中に浸透していけるよう努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身延線の芦川駅からほど近い、高台に位置し周辺には保育園、小・中学校、役場支所、また、市川団十郎発祥の地と知られている歌舞伎公園があり、教育と文化の地とされている。事業所は鉄筋二階建てで介護老人保健施設と併設した2階にあり、窓からは南アルプス、八ヶ岳が見渡せ居ながらにして四季を感じることができる。家庭的な雰囲気の中で、利用者個々に合った生活を作り上げることが職員の志の項目にあり、エプロン、割烹着が日常生活としてほうきを持って、掃除をするなど以前からの生活の延長として支援している。年2回開催している親睦会では、家族と利用者、職員が一緒に外出や事業所内で催しを行い、家族間の交流の場にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームみたま**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との調和を理念に掲げ、地域との連携が図れるよう努めている。運営推進会議を通じて町の福祉支援課と民生委員さんとコミュニケーションを図っている。	左と同じ	運営規定を基に地域連携が図れるよう「地域との調和」を理念としている。また、職員の志として「人生の先輩に敬意を払う」「日常生活の低下を防ぐ」「家庭的な雰囲気の中で一人ひとりに合った生活を作り出す」の三項目を事業所内に掲示し、職員は意義を意識してして支援に努めている。	職員各自は理念を理解し日々の支援に努めている。今後は職員間で話し合いの機会を持ち、理念がケアに反映されているか意見の統一を図り、地域生活の継続支援と地域との関係性を図れるよう、管理者と職員が情報を共有して実践につなげることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに食材の買い物に行き、知人に会うと声を掛けてくれる。また、面会に来て下さるきっかけとなっている。地域の保育園の運動会に参加し園児と一緒に競技などを行っている。地域の防災訓練にも参加している。		日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしている。また、地域の防災訓練への参加や保育園の運動会では、利用者と園児が一緒に行う競技があり、地域の一員として交流している。地域と触れ合う機会を作り、地域と密着出来るような情報提供を町や老人会等に働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設全体で認知症サポーター研修を受講している。町主催の認知症についての研修会に講師として参加し認知症の対応方法などを講演した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、活動状況等を報告している。ご家族様の参加もあり、施設側に対しての要望を聞きサービスの向上に努めている。		2か月に1回、平日の第4木曜日の午後から開催している会議には、利用者、利用者家族等が交代で出席している。事業所は活動状況等を報告し、会議の出席者から質問、意見、要望を受けている。利用者、家族等から出された意見は記録し、職員間で共有しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただいている。居室が空いている時などは町へ連絡し、紹介していただいている。		運営推進会議への出席や事業所内の実情等相談事項に対応してもらえるよう、日頃から協力関係を築いている。町からの依頼を受け、管理者や職員が認知症研修の講師をしている。また、認知症サポーター養成講座を事業所で二日間開催し、全職員が受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、スピーチロックについて取り組んでいる。各自がスピーチロックを理解しており、普段の業務の中で使わないよう意識している。アンケートを取り、自分の普段の言葉遣いを振り返る機会があった。		身体拘束委員会が事務次長、看護師長、相談員、フロアリーダー、理学療法士等で構成し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。無意識に言葉でさえぎり、利用者の行動を制限しないよう、利用者の意思を確認しながら、自主性のある暮らしを支えるよう職員間で理解し支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて職員に徹底している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在成年後見人制度を利用している方がおり、成年後見人制度について勉強している。また、必要な方には制度の情報を提供している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と利用約款を利用し、入居時に十分な説明を行い理解・納得していただいている。			

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームみたま**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加を促し、会議の中でご家族からの要望・意見を聞きそれらを運営に反映している。意見・要望等を気軽に話せる雰囲気作りに関心している。意見箱も設置してある。		管理者や職員は面会時等には家族に話しかけ、何でも話してもらえるような関係をつくっている。定期検診の受診時にも職員が同行していて要望、意見を聞くことができる。家族からは、出来る事はさせてほしい、部屋に閉じこもっている事が多いようなので室外に出してほしい等、意見、要望はケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中に管理者とコミュニケーションを図る時間が十分にあり、いつでも相談や意見を発言できる環境にある。		パート職員は半年の更新時に、職員は必要に応じて個人面接を行っている。日頃から気軽に話することができる雰囲気、意見・要望は言いやすくなっている。実際に勤務体系、年休、休憩時間等の要望について改善され、働く意欲の向上にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場の職員と関わりながら、業務をこなしている。次長や理事長の訪問が週1回あり、そこで色々なことを相談できる環境にある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	短い時間で全員集まっの「遠慮なく意見を言う会」を始めました。(先日、9月9日) それぞれの職員のレベルに合った、利用者への対応を指導、お願いをしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では県内の協会には参加できていないが、いくつかの施設との交流はあり、相談している。管理者が全国のグループホーム協会の会議に参加しており、他のグループホームの良い所を取り入れようとしているが、できていない。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話し合う場を作り、困っている事や不安な事を聞き安心して生活できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに気軽に訪問していただき話ができる雰囲気作りを努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・本人の実情や要望についてしっかり把握できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族から本人の習慣としていた事や趣味などの情報をできるだけ得て、その人らしい生活が送れるよう心がけている。			

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームみたま**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を踏まえ報告している。また、本人の要望を叶えられるようにご家族の協力も得ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの物を持参していただくようお願いしている。ご家族に本人の居場所を伝えてもらい施設に訪ねてきてくれるようお願いしている。気軽に面会できる雰囲気作りに努めている。		以前住んでいた近所の人や親戚の人が、家族から話を聞いて訪ねて来たり、家族と一緒に墓参りや行きつけの美容院に行っている。今までの生活で築かれてきた人と場所との関係が途切れないよう、つながりを継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、好み、能力等を把握し、日常の中でそれぞれの入居者が活躍できる場を提供している。性格が合わず、ぶつかってしまう時には、席の移動、フロアの移動等行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も関わりを必要とされる場合、その後の相談、支援を行いたい。退居後の施設等に本人の様子を見に面会に行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活を把握し、希望に添えるよう努めている。ご家族にも協力を得ている。ご家族より昔はどのような方だったかを聞き取り少しでも本人を理解できるよう努めている。		入居時に家族等から情報を得ているが、日頃の関わりの中で何をしたいか、どのように暮らしたいか把握に努めている。無尽をしていた仲間がどうしているか心配という思いがあり、家族に相談して無尽仲間と話す機会を作った。また、利用者同士の会話や表情からも汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族との面談の場で情報収集している。これまでのサービス利用時の情報、経過等を関係機関より情報を得るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の変化や心身の状態を具体的に記録し、有する能力、心身状況などを職員間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに家族に普段の様子を伝えながら、意向を聞き取り計画書に反映するようにしている。日常生活の中で本人の意見等と聞き取り、実現できるように努めていきたいがなかなか出てこない。本人の状態に合わせて職員間で検討しケアの提供を考えている。		日頃の関わりの中で職員、家族等からの意見、要望を反映した介護計画を作成している。半年で見直し、ケアマネジャーから情報を得てアセスメントを含め職員間で話し合い、意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した生活を支える介護計画を作成し家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に記録し職員間で共有している。			

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームみたま**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活が送れるようにその時々生まれるニーズに出来るだけ対応していきたい。インフォーマルサービス等の利用も考えたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、出来るだけ地域資源の活用も考えたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に掛りつけ医を決めていただき、定期受診は家族にお願いしている。緊急時には施設側で対応する時もある。併設のDr.の回診もあり、病状等相談し必要であれば病院受診を家族にお願いすることもある。病状に変化がある時は、職員が付き添いDr.の様子を伝えている。		利用者全員が入居前からのかかりつけ医を受診している。家族同行の受診となっているが必要に応じて有料ボランティアを利用している。受診時に日頃の様子(血圧等)を家族に伝えて、適切な診療が行われる様、情報を共有している。また併設している施設の医師の回診が週1回・年2回検診があり健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での情報や気づき等随時併設の看護師に相談している。場合によっては、本人の様子を直接見に来られ、必要な処置等を行ってくれたり、指導してくれたりする。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し、情報を共有している。又、入院中の様子など病院関係者と連絡を取っている。入院中に本人の様子を見に行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に特養の申請をお願いしている。施設内で重度化した時には早めに病院受診し早い段階から対策を取っている。自力歩行が出来なくなってしまうと、施設の利用が出来なくなってしまうことをご家族様に理解してもらっている。歩行が不安定となってきた段階で、ご家族様と話し合いの場を持つようにしている。		重度化や終末期の対応について、事業所では看取りを行っていない旨の説明をし、その後の対応として他の施設への入居申請を家族の意向でお願いしている。自力歩行が困難となった時を重度化の目安として、家族と話し合いの場を持ち、意思を確認しながら方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に併設の老健と合同で、救急時の対応等の研修を消防署を含め行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と共に非難訓練を行っている。災害時の避難誘導について職員に伝えている。災害時等のマニュアルの作成を検討している。不法侵入者についてのマニュアルは作成し、実際に警察署を交えて訓練した。		年2回、併設している施設と合同で避難訓練を実施し、避難経路の確認等行っている。地震、火災、侵入者に対するマニュアルがあり、職員連絡網、手順等について確認している。夜間想定は実施していないが口頭で確認している。不法侵入者の訓練を警察署立ち合いで実施し、道具の使い方等の指導があった。	日中に夜間を想定して一人体制で訓練を行い、利用者の一人ひとりの状態を踏まえて、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように、職員と利用者が一緒に訓練を実施し、災害時の具体的な避難策を職員間で検討し、避難誘導ができるように備えていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう職員間で心掛けている。又、気づいた時にはその場で注意するようにしている。		人生の先輩として敬意をはらっている。呼称は苗字としているが、呼び方は利用者確認して呼ぶようにしている。トイレやお風呂の誘導の声かけも目立たずさりげない言葉かけや対応をするよう努めているが、気づいた時には職員間で注意をするようにしている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームみたま**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草などを注意深く観察し、本人が希望を表したり自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHの日課に沿って日常生活を過ごしていただいているが、本人の希望を確認し拒否が強い時には無理しないよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は普段着ていた服などを持参してもらっている。買い物に出掛けた時に本人の好みの物を購入するよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせ、出来る事を職員と一緒にやっている。食材刻みが得意な方には食材刻みを依頼し、苦手な方には後方付け等を依頼している。なるべく多くの方が作業に参加できるようにしている。入居者様より食べたい物を聞き取りメニューに取り入れたり、外食に出掛けたりしている。		併設している施設の栄養士の献立を基にしているが、いただいた野菜や利用者の好みで変更する時もある。買い物や調理、食事の後片付けなど、利用者の個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。職員と利用者が同じテーブルで食事をして良い雰囲気であり、外食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食の方に配慮している。個々に合わせ、必要な方にはご飯のグラムを決め計って提供している。食事摂取量が少ない方は、水分・食事チェックし主治医につえている。本人の習慣に合わせパンが好きな方には、パンを提供し食事がとれるようしえんしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。入居者様の能力に応じ一部介助しながら行っている。歯科医の往診あり口腔ケアチェックを行い指導を受けている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握しトイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。オムツ類も検討し、本人に合ったものを使用するようにしている。		排泄チェック表で確認し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。バットを使用する時は、どういう時間帯にどのようなものを使用するかで、小のバットを使い分けている。日中は布パンツの使用者が多く、自立して行きたい時にトイレに行くことができるよう、使い慣れたトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品の摂取に心がけている。特に便秘がちな方には食物繊維のファイバーを使用している。水分摂取も促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットごとに隔日に入浴している。タイミングに合わせて入浴に誘導している。又、1番風呂に入りたいとの希望を優先している。夜間に入浴を希望される方がいるが、今の所対応できていない。今後夜間の入浴ができるよう対応したい。		週3回、午前、午後入浴している。特に入浴困難な利用者もなく、生活習慣や希望に合わせた入浴支援をしている。一番風呂を希望する利用者は午前または午後一番風呂に入っている。シャンプーも利用者の髪質や皮膚トラブルに合わせた物を使ったり、ゆず湯等季節に合わせた支援をしている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームみたま**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	外部評価
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方にはその習慣を尊重している。夜間寝つきが悪い方には足浴等を行い気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容を把握している。薬の変更等での副作用にも注意を払っている。薬の変更後の本人の様子なども観察している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせ、個々が喜びのある日々を過ごせるよう買い物・掃除・洗濯たみ・洗濯干し等依頼し役割をもっていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1ヶ月に1回外出の機会を作り、季節にちなんだ場所へ外出している。又、買い物に行きたい方は買い物に出かけるよう支援している。		日常的には、散歩や洗濯干し場に置いてあるプランターの花の水やり等、短時間でも戸外に出る機会を作っている。月1回の外食や大型ショッピングセンターへの買い物、季節の花見等利用者の希望で出掛けている。また、春と秋、年2回親睦会を実施し、さくらんぼ狩り等、家族と協力しながら出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者のお小遣いは職員が管理しているが、自己管理ができる方は少ない金額を財布に入れ管理している。支払能力がある方は、自分で支払うよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方にはかけるお手伝いをしていて、本人宛てに電話の時には会話できるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にちなんだ掲示物を入居者と一緒で作成し掲示している。外出時の写真も掲示している。散歩に出かけた際、季節の花を摘みフロアに飾っている。地域の方からのお花の差し入れもある。		利用者が日中過ごす共用の場には、ソファが置かれゆったりとテレビを見ながら過ごしている。腰掛けられる高さの畳の場所があり、冬には掘りごたつを作り利用者の憩いの場となっている。窓からは南アルプス、八ヶ岳が見渡せ夏には花火を見て楽しんでいる。ユニット間は自由に行き来出来、利用者一人ひとりが居心地良い暮らしをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにベンチを設置したり、畳にこたつ等を用意し利用してもらっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの家具等を持ち込んでいただけるよう支援している。洋室と和室の居室が空いている時には本人の生活スタイルに合わせ選択してもらっている。		和室と洋室のユニット毎に異なった2タイプの居室になっている。居室の入り口はのれんが下がり利用者が塗り絵をした花の表札が飾られている。室内は明るく清潔感があり掃除が行き届いている。洗面台、ベットが備えてあるが、使い慣れた物を持ち込み、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除(自室)洗濯、炊事(下ごしらえ)、買い物(職員と同行)畑(職員と同行)など各個人の能力に見合った作業をこちらからお願いしている。出来るだけ動いてもらうよう努力に心がけている。			